

がんばっぺ東北 がんばっぺ日本

だがしや楽校ひとりごとダイアリー

東日本大震災支援チャリティー

だがしや楽校 & ライブ & バザー

小さな力を大きな力に！ 山形から元気を送ろう♪♪

山形県山形市発

2011年4月23日（土曜日）曇りのち小雨時々雨

【東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”3日目】

あらためまして、このたびの東日本大震災にて亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げます。黙祷！



東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”3日目は、2日目と同様、山形駅西口側・霞城セントラル1F・アトリウムにて開かれました。

2日目では、様々な思いが交差しながら取材し、レポートを制作しましたが、1週間後の3日目は「元気」を感じました。同じ取り組みでも、1週間経過すると「感じ方も違ってくる」ことを実感しました。

その背景には、被災地の状況、それを取り巻く、支援の状況・周辺地域の状況が日々刻々と変化していることが挙げられます。

この日の“だがしや楽校&ライブ&バザー”からは「山形から被災地・被災者へ元気を届ける」「山形を元気にしよう」という思いがヒシヒシと感じられました。

それでは、“だがしや楽校&ライブ&バザー”3日目の様子をご紹介します。

《バザー》

この日は“こども芸術大学”のおかあさんたちによるバザーです。

“こども芸術大学”とは、東北芸術工科大学・こども芸術教育研究センターが、3歳から小学校入学までの子どもとおかさんを対象にした幼稚園や保育園に並ぶ教育機関として設置しているものです。



バザーの一角には折り紙コーナーも設けられていました。



楽描きだがしや楽校でお馴染み・東海林さんが自分のトレードマークを指さしていますが、その後ろに見える人型のパネルは“こども芸術大学”のおかあさんたちが作られたものです。



子どもたちもおかあさんたちに負けていませんでした。“だがしや楽校”のおみせでいっぱい遊んだり、募金活動を行いました。



《だがしや楽校》

▼お魚釣り

東北芸術工科大学の学生さんによるおみせです。



葉っぱなどいろんなものに絵の具を付けてハンコのようにして描きます。好きな形に切ったりして、お魚?にします。



できたお魚?を釣ります。よく見ますと、お魚とは思えないお魚もありますが、なんでもOKなのが“だがしや楽校”です。

▼パステル画

こちらも東北芸術工科大学の学生さんが出したおみせです。



お子さんだけでなく、大人も夢中になって描いていました。

▼音楽と繭玉のおみせ



だがしや楽校仲間のYさんとそのおとうさんによるおみせです。

Yさんは2日目に引き続き、初音ミクのデジタル映像と音楽を屋台にしました。おとうさんは繭玉転がしのおみせです。繭玉はまんまるではありませんので、いろんな転がり方をします。子どもたちにも大受けでした。

▼らくがき&スライム

楽描きだがしや楽校のメンバーが、2日目に引き続き出したおみせです。



子どもたちに人気のスライムの屋台です。きょうもフィルムケースを使って作りました。



らくがきでは、紙飛行機を作り、飛ばして遊んだりしました。

《ライブ》

今回も、丹波さんやゆき彦さんの呼び掛けで、5組のアーティストが集結しました。



♪ It a - n e e

今回はホスト役の It a - n e e さんと丹波さんのライブからスタートしました。



♪丹波恵子さん



♪つどう街

丹波さんの“だがしや楽校”の歌“つどう街”を、振り付け指導：ゆき彦さん、ダンサー：東海林さん・近藤さん（楽描きだがしや楽校）、片桐さん（東北芸術工科大学）、チェリーズのTさんで歌い、踊りました。



♪華人



♪H2M

2日目も参加したよねやともかずさん、今回は華人として出演です。キーボードはひがしれいこさん、ギターはゆき彦さんです。フォルクローレから演歌まで多彩な演奏を繰り広げていました。

写真の右側お二人がご夫婦というH2M、演奏前のサウンドチェックに時間をかけていたというこだわりを感じました。



♪エブリーナイト



♪チェリーズ

エブリーナイトは1人による音楽ユニット。チェリーズは2日目に引き続き、途中で踊りも披露されました。



♪はくもくれん



♪ゆき彦

オカリナ演奏から山崎ハコまで多彩な演奏を繰り広げたのが“はくもくれん”です。そして、ゆき彦さんのステージでした。



最後に、“It a n e e”さんが、被災地も山形もひとつの空でつながっているという思いで書き上げた曲「この大きな空はつながっている」をみんなで歌いました。

今回は2組で“花祭り”が演奏されました。“花祭り”は“コンドルが飛んでいく”と共にフォ

ルクローレを代表する曲として知られています。山形でも桜の季節を迎え、この時期にピッタリで、明るくリズムカルな曲ですが、原曲もアンデスの谷にカーニバルがやってくる喜びを歌った曲です。

被災地ではとても「喜び」を感じるような状況ではないかもしれませんが、「喜び」なんて場違いな言葉かもしれませんが、でも、それをわかっている、被災地の人たちに「喜び」を届けたい、そんな思いを私は持ちました。

いつもの年と同じように、春が来て、桜が咲いて、緑の季節がやってこようとしています。

会場ではチャリティーということで、今回も募金活動を行いました。



今回も会場ではあちこちで交流する風景が見られました。



私（山口）の紹介（コーディネート）で会場を訪れたのは、米沢市にて環境や食育などをテーマに有機農業などを手掛けるNPO法人の人たちです。

このNPOは、大震災発生後の3日後には宮城県に入り、新鮮な野菜などを被災者に届ける活動を行ってききましたが、活動を続けていく内、被災地の子どもたちがおもちゃを欲しがっていることを知り、“だがしや楽校”で譲り受けたおもちゃを活用していただくことになりました。そこで、“だがしや楽校”を学ぶために、会場を訪れたのです。

写真左はパステル画を体験するNPOの人たち、写真中は片桐さんと挨拶を交わすNPOのNさんです。

写真右は、山形市市民活動支援センターの人たちと東北芸術工科大学の学生さんとの交流風景です。山形市市民活動支援センターは霞城セントラルの22階23階にあり、市民活動・NPO活動の推進・振興を目的に様々な活動を行っています。デジタル映像と音楽の屋台を出したYさんは山形市市民活動支援センターのスタッフでもあります。



坂本九の“上を向いて歩こう”をよく聴きます。この日のライブでも歌われました。

坂本九の“上を向いて歩こう”は、一人ぼっちの夜、涙がこぼれないよう、上を向いて歩こうと歌っていますが、私たちは「一人ぼっち」ではありません。必ず誰かとつながっています。

私たちは誰かとつながっているから「生きていこう」と思うのです。

私たちは、困っている人・助けや支援を求めている人を見ますと、「手を差し伸べたい」と思います。そして行動を起こします。だから、困った時・辛い時には、支えられて良いのです。

一人ではない。どこかでつながっている。それが生きる糧になっています。

それが「元気」の源です。

この日の“だがしや楽校&ライブ&バザー”から感じた「元気」が被災地に人たちに届きますように・・・

東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”

4月30日の4日目へ続く・・・

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター

◎4月9日の1日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110409nikki.html

◎4月16日の2日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110416nikki.pdf

◎4月30日の4日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110430nikki.pdf